



報恩感謝の「おはぎ」

ほうおんかんしゃ

秋のお彼岸のお供えには、やはり「おはぎ」がよく似合う。「萩の餅」とも呼ばれるように、この季節に咲く萩の花に見立てて、そう呼ばれるようになった。ちなみに春のお彼岸になると「ぼたもち」と呼ぶのは、牡丹の花から。甘いものが貴重だった昔は、おはぎもぼたもちも特別のごちそうだった。真心込めて家族皆で用意したこの甘味は、大切なご先祖様への報恩感謝の味。

主人公・畠山重忠

東

光禅寺の三門脇にひっそりと立つ古い石塔に、今日もお参りの方がそつと手を合わせておられます。東光禅寺の開基（建立者）である畠山重忠公の供養塔と伝わる石塔です。お花やお線香を上げている方も少なくありません。今年話題のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」でも、俳優・中川大志さん演じる重忠の活躍の様子が描かれており、ドラマの影響もあってか、遠方よりお参りに来られる方も増えました。

鎌倉時代、源頼朝の右腕として厚い信頼を受け、数々の戦で先陣を務め手柄を立てるなど、鎌倉幕府成立に大きく貢献した有力御家人の一人として知られています。「勇猛果敢」「質実剛健」「清廉潔白」「実直」「忠君を貴ぶ」といった重忠の人物を物語る逸話や言い伝えが多く残り、後世において歌舞伎や浄瑠璃の題材にも使われるなど、その誇り高き生き様から「坂東武者の鑑」とも称されます。ゆかりの地、埼玉県比企郡嵐山町に立つ畠山重忠公像の碑文には、次のように刻まれています。

「義を重んじて正路を履み文武両道全

うし、忠良にして私心無く……（中略）
公明にして寛大、人は其の誠純を敬す……」

なお、東光禅寺ご本尊の薬師如来坐像は、重忠の念持仏※とされているもの。また、位牌が祀られており「東光寺殿前秩父太守月峰慈明大禪定門神儀」と御戒名が刻まれています。東光禅寺と重忠とは、このように深い縁で結ばれているのです。

そんな重忠の人物を示す逸話を、数多くある中から一つご紹介します。かつて、地頭を務めていた伊勢国（三重県）の領地で、自らが任命した代官が不祥事を起こしたため、重忠が責任を問われ幕府に囚人扱いとされ、身柄を一時拘束されるといふことがありました。その際、重忠は言い訳一つせず「申し訳ない！」「自分に所領を預かる資格などない！」と、七日間もの間、眠らず、一言も話さず、謹慎しながら死のうとしたといわれています。その様子を聞いた源頼朝は、その態度と潔さに心打たれ、すぐに罪を許したそうです。

さらにこの一件からわずか一か月余り後、当時、力を持っていた梶原景時

の陰謀で、「囚人扱いされたことを恨んだ重忠が謀反を企てている」との虚偽の申し立てがありました。事実確認に訪れた使者が真意を問うたところ、「頼朝公への篤きご恩がありながらなぜ反逆せねばならぬのか」と憤慨。謀反の意志がないのであれば、それを誓う「起請文」を提出せよ、との命に「自分は言葉と行動を違えるようなことは決してしない。この重忠が偽りを述べるような者でないのは頼朝公が最もご存知のはず。起請文など書かぬ！頼朝公にそう伝えよ！」と拒否し正々堂々と無実を主張しました。それを伝え聞いた頼朝は、後に重忠を呼び出した際にも、謀反の疑いについては何も触れず、問いただすこともなかったといえます。

一つ間違えば全てを失いかねない状況であったにも関わらず、臆せず堂々と自らの信ずるところを述べたことで、重忠は頼朝からの信頼を揺るぎないものとし



畠山重忠公像
(埼玉県比企郡嵐山町)

ました。歴史書「承久記」によれば、頼朝が亡くなる際には遺言で「今後はいかなる大名や家柄にも惑わされず、畠山重忠をもつて日本国を鎮護すべし」とまで言い、実際に本人を枕元に呼び「息子たちのことを頼む」と言い残して逝った、との記述も残されています。北条一門が着々と勢力を伸ばす中、近くに仕える者すら信用できず疑心暗鬼になっていた頼朝にとって、唯一といえるほど心から信頼できたのが重忠だったのです。

頼朝の死後も宿老13人による合議制への参加を断るなど、時勢に踊らされず、自らの行動に責任を持ち、徹底して信念を貫いた重忠の存在感は、裏切りや陰謀が渦巻き、少しでも高い地位を得ようと、力ある者が簡単に言動を翻すことが珍しくなかったその時代において、傑出していたといえます。



伝・畠山重忠公供養塔(東光禅寺)

そ

んな重忠の生き様に触れるとき、「主人公」という言葉を思います。今は主に「物語の主役」という意味で使われますが、もとは唐の時代の禅僧・瑞巖師彦和尚にまつわる少し変わったエピソードから生まれた言葉です。

坐禅というと普通は静かに坐り黙って行うものですが、この和尚はなんと大きな声で「おい！主人公！」と自らに問い掛けながら坐禅をしていたというのです。周りの修行僧たちはさぞかし驚いたことでしょう。

師彦和尚はさらに問い掛けに応えるように続けます。「ハイ！」と。自ら問い掛け自ら応える、かなり変わっています。さらに、「ちゃんと目を覚ましているか？」「ハイ！大丈夫です！」「誰かに騙されたり心を惑わされたりしていませんか？」「ハイ！大丈夫です！」と一人問答をしていたそうです。

本来、禅という「主人公」とは「真の主体性を持った自己」を意味します。師彦和尚は人の心がいつも簡単に惑わされたり、路頭に迷ったりするものだと理解していたからこそ、こうして厳しく自己に問い掛けていたのでしよう。「人の言うことや世間の評価ばかり気にしてはいないか」「いわゆる『常識』や既成の価値観にとらわれて

はいないか」「それは本当にお前の本心なのか」「お前の『主』はどこにいるのか」と。

この世界には、自分に代わる者は誰一人として存在しません。しかし、なかなか本当の意味で主体的に生きるというのは難しいものです。周りの空気に流されたり、勝手に自らに限界を設けたり、自分はこういう人間だからと決めつけてしまったり。そうして心の「主」を失った結果、最悪の場合には洗脳され、殺人すら正義であると信じて疑わなくなってしまうことさえあるのです。

「主人公」とあるということは、自分の内なる声に耳を澄ませ、何物にも惑わされず、本来達成すべきことを見極め、実行する勇氣と気概を持つこと。それは重忠公の生き様とそのまま重なります。

忙しさに翻弄され、焦ったり地に足がつかないいな、と感じる時、重忠公の念侍仏・薬師如来様と位牌の前で静かに坐ります。すると「おい！主人公！」と厳しく問い掛けられている気がして、背筋が伸びる思いがいたします。

八百年の時を超え、開基・畠山重忠公の生き様とその魂は今もなお、私たちに多くの気付きと真の勇氣を与え続けてくれています。

※常に身辺に置いたり身に付けたりして、私的に礼拝するための仏像





禅を味わう 和菓子

「○△□」



釜利谷東にある和菓子の人気店「たんの和菓子店」さんをご存知でしょうか。開店してまだ3年も経たない新しいお店ですが、大きな茶会などから引つ張りだこの、季節の彩りが美しい練り切りや、各種フルーツが入った大福などが評判の行列店です。和菓子一筋、丹念に修行を積んでこられたご主人と、明るくお店を切り盛りする奥様の若夫婦が営んでお

れます。新しいというものの、独立される前には、同じ釜利谷で古い歴史のあつた別の和菓子店の看板を10年にわたって守つてこられた経験もあり、東光禅寺ではその頃から、坐禅会や来客用、贈答用などのお菓子で長くお世話になっていました。その頃、住職がふと口にしたアイデア

をきっかけに、それを形にしてくださいと誕生したのが、禅の世界でよく知られる墨蹟「○△□」をモチーフにした和菓子のセットです。「○」のどら焼き、「△」のアーモンドらくがん、「□」のクルミもなかで構成された大変美味しい三種の甘味は、今では同店の定番メニューの一つとなつており、セットの菓子箱に付けられる案内文は、僭越ながら住職が書かせて頂いています。単純な記号を羅列しただけのこの不思議な禅画は一体何を意味するのか。果たして正解があるのかないのか。技と真心の結晶である匠の味を楽しんで頂きながら、是非、そんな禅の世界に触れて頂ければと思います。



たんの和菓子店
金沢区釜利谷東 2-10-1
電話 045-782-8756
月・火曜定休
<https://tanno-wagashi.com>

- 1月**
- 7日 報国寺大般若荷担
 - 11日 建長寺英語坐禅会荷担
 - 19日 金沢区佛教会理事会於…長生寺
 - ※9日・11日・25日・29日「白山坐会」開催(オンライン含む)
 - ※14日・30日 円覚寺僧堂布薩会参加

- 2月**
- 8日 横浜市仏教連合会涅槃会荷担於…長生寺
 - 17日 明治大学日本語教育センターオンライン坐禅会
 - 19日 建長寺派神奈川二部部内会(オンライン)
 - 24日 日本体育大学コーチング・エクセレンス・センターオンライン坐禅会
 - 26日 昌弘閑栖住職喜寿祝い
 - 28日 神奈川県仏教青年会役員会於…大法寺
 - ※8日・22日「白山坐会」オンライン開催(現地開催は中止)
 - ※13日 円覚寺僧堂布薩会参加

- 3月**
- 1日 本堂前白梅撤去作業・供養
 - 17日 日本体育大学コーチング・エクセレンス・センターオンライン坐禅会
 - 21日 春の彼岸ご先祖まつり法要
 - 25日 神奈川県仏教青年会オンライン研修会
 - 30日 福聚寺住職御母堂通夜葬儀出頭
 - 31日 神奈川県仏教青年会役員会於…龍臺寺
 - ※8日・22日「白山坐会」オンライン開催(現地開催は中止)
 - ※30日 円覚寺僧堂布薩会参加

- 4月**
- 6日 金沢区佛教会花まつり大会於…称名寺
 - 8日 釈尊降誕会花御堂設置
 - 11日 建長寺750年遠諱実行委員会
 - 12日 建長寺派布教師会会議
 - 19日 ベトナム寺院・大恩寺(埼玉県本庄市)訪問
 - 22日 寿福寺先代住職津津津新忌齋荷担
 - ※10日・12日・26日「白山坐会」開催(オンライン含む)
 - ※13日・29日 円覚寺僧堂布薩会参加

白山住職・寺務日誌より
(令和4年1月〜6月・抜粋)

- 5月**
- 11日 東光禅寺施餓鬼会
 - 13日 金沢区佛教会理事会於…禅林寺
 - 17日 建長寺英語坐禅会荷担
 - 21日 第112回ZENと写経とお茶の会
 - 26日 「お寺で整体ヨガ」開催
 - 27日 金沢区佛教会定期総会於…長生寺
 - 28日 建長寺土曜法話担当
 - ※8日・24日・28日「白山坐会」開催(オンライン含む)
 - ※13日・30日 円覚寺僧堂布薩会参加

- 6月**
- 3日 神奈川県仏教青年会布教誌発送作業於…東光禅寺
 - 8日 林光寺先住和尚小祥忌(一周忌)荷担
 - 10日 建長寺法話スペシャル登壇
 - 20日 建長寺750年遠諱営繕委員会
 - 21日 カスパー・スクロダー氏・ドキュメンタリー撮影協力
 - 22日 白山重忠公・重保公顕彰募参会於…白山重保公廟所
 - 23日 「お寺で整体ヨガ」開催
 - 25日 本尊・薬師如来坐像 鎌倉国宝館特別展展示のため遷座
 - 27日 神奈川県仏教青年会機関紙発送作業 於…龍華寺
 - 29日 桜美林大学日本語プログラム オンライン坐禅会
 - ※12日・14日・25日・28日「白山坐会」開催(オンライン含む)
 - ※13日・27日 円覚寺僧堂布薩会参加



東光禪寺の歴史を教えてください



聖観音立像（鎌倉-室町時代作）。かつては観音堂に納められていた



開山・葦航道然大興禪師坐像（江戸時代作）

A 東光禪寺の縁起（起源や由来）を示す確実な史料が限られるため、分かっていることは決して多くはありませんが、最も有力なのは、鎌倉薬師ヶ谷、現在の鎌倉宮が建つ場所にかつてあった、医王山東光寺が前身であるという説です。

「吾妻鏡」※1によれば、この寺院は鎌倉幕府官僚であった二階堂行光によって承元3年（1209年）に建立されたもので、建武2年（1335年）、幽閉されていた後醍醐天皇の皇子・護良親王が足利直義の命によって殺害された場所として



寺光東谷利釜澤金州武

関東大震災前の東光禪寺全景。現在は白山道奥の離れ墓地となっている場所。大正6年（1917年）撮影

知られます。南北朝時代には関東十刹の一つとなり、五重塔も造立されたといわれています。その医王山東光寺が、後に現所在地である釜利谷へと移り、今の白山東光禪寺として引き継がれた、というものです。

そして、「新編武蔵風土記稿」※2の中に、釜利谷に引き継がれた後の東光禪寺に関する記述が出てきます。それによると、当初は「白山堂」という名の真言宗の寺院であったとされ、應永31年（1424年）に書かれた足利持氏の文書に、金沢文庫・称名寺（真言宗）の末寺としてその名前が残っている、とのこと。一方で、釜利谷に移ったのはもう少し後の応仁年間（1467〜69年）である、との説もあります。

その後、何らかの理由によって臨済宗建長寺の傘下となり、後付けする形で鎌倉時代の高僧・葦航道然（大興禪師）を中興開山に、源頼朝の忠臣であった畠山重忠（鎌倉時代当時、釜利谷を所領）を開基と定めたのではないかと、「新編武蔵風土記稿」は推測しています。また、現存する「聖観音立像」を祀るための観音堂がかつて建っていたことも、併せて記述されています。

いずれにせよ、鎌倉時代に作られたことが明らかである重忠の守り本尊「薬師如来坐像」、重忠の供養塔、位牌が代々護り継がれてきたことや、

嫡男・重保の墓所など親子にゆかりのある史跡や地名が周辺地域に点在することから、畠山家とは少なからぬ結び付きがあったことは間違いなさそうです。

現在の「白山道」という地名も、もとの「白山堂」に由来しています。お寺の前の細い道も、かつては称名寺から鎌倉へと到る主要路の一つとして、長い間大きな役割を果たしてきました。六地藏や白山社、摩崖仏などが道沿いに残っているのもその名残です。

もともと、長年お寺が実際に建っていたのは、今ある東光禪寺から500メートル程奥に入った、現在離れの墓地となっている白山道奥の一画でした。その後、大正12年（1923年）の関東大震災で本堂や庫裏が倒壊したのを機に、今の場所へと移動してきました。現住職の祖母がまだ幼少の頃であり、「唯一被害を免れた三門の屋根を、丸太をコロにして村人総出で運んでいるのを見た記憶がある」と生前よく話していたものです。

寺に残る過去帳には、開基・畠山重忠公、開山・葦航道然和尚に続く最も古い記述として、康永3年（1344年）に示寂した二世・高源遠谿雄大和尚の名が記されています。以来、過去帳には二千以上に上る地域の人々や歴代住職などの御戒名と名前が記され、その歴史を物語っています。

※1 鎌倉時代に編纂された歴史書。治承4年（1180年）から文永3年（1266年）までの幕府の事績を記す
※2 江戸時代後期に編纂された武蔵国の地誌。文化7年（1810年）に起稿し、文政13年（1830年）に完成。全265巻

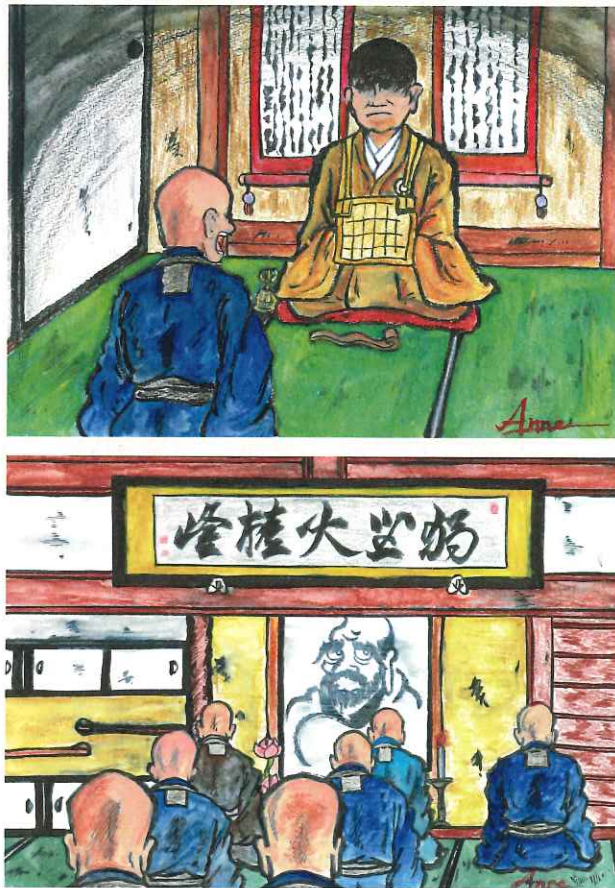
独参どくさん （禅問答）

文：福厳寺（栃木県足利市） 采澤良晃
画：法蔵寺（三重県四日市市） 水谷周行

僧堂（専門道場）で欠かせない修行に、老師と二対一で行う「独参（禅問答）」があります。「独参」とは雲水が老師の室に単独で入り、与えられた公案についての自分の理解を示すことです。「公案」とは主に中国伝来の問答の記録集で、雲水が日夜全身全霊で考え尽くし、禅僧としてどういう境涯に至るべきかが詰め込まれている課題でもあります。この公案は、実に千七百もの問の数があるとも言い伝えられております。この全てを解き終えた禅僧が、臨済宗では「老師」と呼ばれる人物です。

僧堂に入門した雲水は皆、老師から公案を与えられます。夜が明けぬ暗闇の時間に始まる本堂での朝課後、開山堂の隣に位置する少林窟が独参場、老師が床の間の前にドンと坐られています。大気もまだ動かぬ禅堂で坐禅をしている雲水は、独参を知らせる喚鐘かんしやうの音が禅堂の谷に響くと禅堂から一斉に飛び出して本堂へ駆け出します。到着順に独参の控え場である本堂上間で整然と坐し、独参の順番を待ちます。自分の番になると、喚鐘を「カーン、カーン」

と二つ打ち、本堂から独参場に続く階段を踏みしめて上がり、老師が坐す室に入り、見解を述べます。



法の大海を航海する船の羅針盤のように、正しい方向を指し示して頂きます。

独参の順番を待つ本堂上間には「独坐大雄峰」の額が掛けてあります。へ今、ここに、こうして、生かされている、何と不思議なことか、すばらしいことか、唯一人ドーンと坐っているとの意味があると管長猊下が教えて下さいました。

修行に精進する雲水にも、損得、善悪、好悪：今までの価値観がどうしても身に付いてしまっています。老師との独参により自分が抱いてしまっている囚われから離れるのです。

ほぼ毎日、老師は雲水の独参を受けて下さいます。雄大な山のように絶対的な存在である老師が、禅堂に居り指導して下さる。老師がいるから大丈夫と、大きな安心感が厳しい修行に励む雲水にはあります。そして自らも、今、ここに生かされている事実を理屈抜きに実感し、大々「独参」に励みます。

老師からは、「もっと徹底したところを持つてこい…」「しつかりと成り切ったところや…」と。禅僧として歩み出したばかりの雲水に、仏

合掌

「ピクニック」はお寺へ

「次の休みはピクニックに行きませんか？」

ブータンにいた頃、教え子や同僚たちからよくそう誘われたものだ。

ピクニックとは言うものの、そこはヒマラヤ山脈の麓。

標高4000mを超える山々にも平気で出かけていく。

目的地は決まって、山奥のお寺。

人里離れた山中には、かつて高僧が修行した庵のような道場も残っており、

それら「聖地」を巡礼することは、人々にとって欠かせない娯楽でもある。

崖の中腹や山の頂にあることが多く、僕にとっては毎回が大冒険だった。

山の民である彼らの足腰は強靱で、気を抜くとすぐに置いていかれてしまう。

やっとの思いで辿り着いても、「さあ休憩」とはならない。

その前に必ず、体全体を地面につけて祈る「五体投地」を行う。

それが、ピクニックの最大の目的でもあるのだ。

高僧が法要の際に坐る席や御本尊に向かって、最低3回。

「3」は仏教における「三宝」を意味するため、その倍数の9回、12回、15回…と繰り返す。

中にはクタクタの体に鞭を打ち、108回もやり遂げる強者もいた。

五体投地の回数が、仏教への信仰心の強さにそのまま比例する、と聞いた。

帰り道、彼らは満足気に「今度はどこのお寺にしようか」と次のプランを話し合う。

この国の人々の信仰心と体力は、こうして育まれていくのだ。

ブータンの
風を感じて

12



文・写真

関 健作

Seki Kensaku

写真家。3年間ブータンで体育教師。帰国後、写真家の道を選び、主にブータンで生きる人々をテーマに撮影している。APA（日本広告写真家協会）アワード2017写真作品部門・文部科学大臣賞受賞。第13回「名取洋之助写真賞」受賞。
【著書】『ブータンの笑顔』（径書房）

